

# 根元曲りの測定方法

富山県林業試験場

平 英 彰

根元曲りの測定方法については、今までいろいろな方法が提案されてきた。現在一般に行われている方法は、地際にポールを立て、胸高部位との距離を測定するもので、これは最も手軽にできる根元曲りの測定方法の一つである。しかし、この測定方法は、幼齢木の測定には適さず、定期的に各部位の根元曲り量を測定していく場合誤差が大きい。そこで、根元曲りをできるだけ正確に測定できる方法はないかといういろいろ考えたすえ、図のような測定方法を考案した。

この方法は、ごく単純ではあるが測定の再現性が非常に高く、根元曲り量は一番下部の距離を引くことによって、重りの位置が多少ずれても正確な値が得られる。重りを円内のように改良するとさらに高い精度で測定できる。

この方法で、10日おきに樹齢の異なる林分をいくつか測定してみると、生長に伴って生じてくる根元曲りの再増加、曲がり返えしが生じてくる経過、樹幹各部位の回復量の違いなどが手に取るようにわかる。

ただ、この測定方法の欠点は、測定に時間がかかりすぎること、1日に80本ぐらいが限度である。また、幹の傾きは、微妙なバランスから成り立っており、雨滴によって2 cmや3 cmはすぐ傾いてしまい、測定は風の無い晴天に限られてしまう。

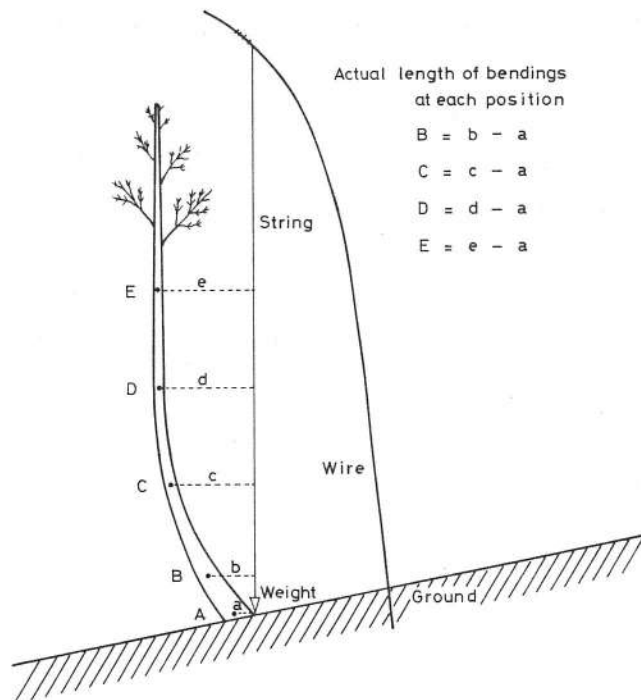
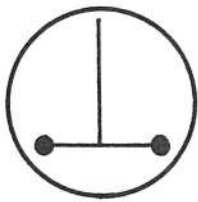


Fig. 1 Measuring method of the bends